

江東区立中学校・義務教育学校（後期課程）
学校部活動の地域連携・地域移行に関する
推進計画

（令和8年度～10年度）

素案

令和7年●月

江東区

第1章 計画の概要

3

- 1 学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画の策定の目的…………… 5
- 2 国・都の動向…………… 6
- 3 推進計画について…………… 7

第2章 部活動の現状

9

- 1 区立中学校等の部活動の現状…………… 11
- 2 意識調査…………… 12
 - (1) 調査の概要
 - (2) 調査結果の分析

第3章 推進方針・重点取組

17

- 1 区の推進方針・達成目標…………… 19
 - (1) 推進方針
 - (2) 計画期間中の達成目標
- 2 達成目標の実現に向けた重点取組…………… 20
 - 重点取組1 地域クラブ活動の推進（地域移行）…………… 21
 - (1) 想定パターン
 - (2) 運営団体と実施主体
 - (3) 地域連携との相違
 - (4) 地域移行後のイメージ
 - (5) 学校との連携
 - 重点取組2 地域活動の集約・一体的紹介（地域移行）…………… 25
 - 関連する取組 部活動指導員・外部指導員の活用（地域連携）…………… 25
- 3 目標達成に向けた課題…………… 26

参考資料

27

- アンケート調査結果…………… 29
- 休日部活動の地域連携・地域移行推進会議…………… 46
- 江東区立学校部活動等の地域移行に係る庁内検討会議設置要綱…………… 47

序文掲載予定

令和7年●月
江東区

第1章

計画の概要



1. 学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画の策定の目的

中学校の部活動は、生徒のスポーツや文化芸術等に親しむ機会を確保するとともに、達成感の獲得、自己肯定感や学習意欲の向上、責任感や連帯感の高まり等に寄与するものとして、大きな役割を担ってきました。

また、他学年生徒との交流の中で、生徒同士や生徒と教員等との人間関係を構築する等の教育的意義に加え、生徒の心身の状況把握、規律正しい学校生活の実現をはじめ生活指導上の効果など、学校運営上の意義のあるものです。

一方で、近年は全国的な少子化の中で、生徒数の減少などにより団体競技などでチーム編成ができず試合に参加できないことや、部員数が減少し、休部や廃部となる部活動が出てしまうなど、持続可能性の面で厳しさを増している状況にあると言えます。

また、教員の働き方の視点で見ると、部活動の顧問等を任された場合、平日の勤務時間外の指導を余儀なくされるとともに、休日における指導や大会引率、運営への参画が求められること、また、場合によっては競技・活動経験のない種目・分野の指導をしなければならないことなど、教員にとって過大な心身と業務への負担となっている実態があります。

このような社会の流れを受け、スポーツ庁や文化庁が、運動部活動、文化部活動それぞれのガイドラインを策定し、その後、検討会議を設置した上で協議を重ね、当該検討会議の提言を受ける形で、国は新たなガイドラインを策定し、東京都は学校部活動に関する推進計画を策定しております。

江東区においても、「江東区学校部活動の地域連携・地域移行推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化に継続的に親しむことができる環境の構築を目指し、学校部活動の制度改革に着手していきます。



2. 国・都の動向

部活動改革は、学校部活動を取り巻く厳しい状況の中で、平成30年にスポーツ庁と文化庁がそれぞれ、「運動部活動（文化部活動）の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能なスポーツ環境・文化芸術環境の整備を進めることが示されました。

そして、令和2年9月には、文部科学省、スポーツ庁、文化庁が、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教員が休日の部活動に従事しないこととする」ことを示しました。

その後、令和3年10月と令和4年2月に運動部活動、文化部活動の地域移行に関する検討会議がそれぞれ設置され、令和4年6月と8月に、その各検討会議からの提言がスポーツ庁と文化庁に提出されたことが、部活動改革の大きな転換点となりました。

この提言により、部活動改革はより具体的な議論が重ねられ、令和4年12月には、スポーツ庁と文化庁が合同で「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下「国ガイドライン」という。）を策定しました。

国ガイドラインの策定を受け、令和5年3月に東京都は、都内の公立中学校等の休日における部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を推進するため、「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」（以下「都ガイドライン」という。）及び「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」（以下「都推進計画」という。）を策定しました。

平成30年3月 平成30年12月	スポーツ庁 文化庁	「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」 「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」
令和4年6月 令和4年8月	スポーツ庁 文化庁	「運動部活動の地域移行に関する検討会議 提言」 「文化部活動の地域移行に関する検討会議 提言」 □7年度末を目途に、まずは 休日の（運動・文化）部活動から段階的に地域移行 していく。
令和4年12月	スポーツ庁 文化庁	「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」 □地域の実情等に応じて 可能な限り早期の実現 を目指す。 □ 推進計画の策定等 により・・・分かりやすく周知し、理解と協力を得られるよう取り組む。
令和5年3月	東京都	「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」

3. 推進計画について

(1) 計画の位置づけ

この推進計画は、国ガイドライン及び都推進計画等に基づく、江東区立中学校及び義務教育学校（後期課程）（以下「区立中学校等」という。）における学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画として策定します。

また、「教育推進プラン・江東」に基づく、部活動改革の推進に係る具体的推進計画として位置づけます。



(2) 計画期間

計画期間は、令和8年度から令和10年度までとし、毎年度の進捗状況や、国及び都の動向を踏まえ、改訂を図っていきます。

(3) 推進体制

この推進計画に基づく部活動改革は、引き続き、教育、スポーツ、文化芸術の関係各課及び関係団体が連携して推進いたします。

(4) 用語の定義

この計画の中で、各用語は以下の意味で使用します。

- | | |
|---------|--|
| 地域・・・ | 国ガイドラインにおいて示されている「運営主体」となるスポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、文化芸術団体、民間事業者など、学校外の人物・団体 |
| 地域連携・・・ | 学校部活動に、顧問の代わりとなる部活動指導員（会計年度任用職員）や、顧問と共に指導を行う外部指導員（有償ボランティア）等が参加すること |
| 地域移行・・・ | 学校部活動を、国ガイドラインに示されている、地域が運営主体となる新たなクラブ活動（「地域クラブ活動」）に移行していくこと |

第2章

部活動の現状



1. 区立中学校等の部活動の現状

令和6年3月に東京都が実施した「部活動実施状況に関する調査」などによる江東区の部活動の現状です。なお、特に記載のない場合、数値は令和6年3月末時点のものとなります。

(1) 設置状況

江東区の区立中学校等（24校）に部活動は計311部設置されております。そのうち、運動部は190部、文化部は121部設置されております。

(2) 部員数及び活動状況

部員数は総計6,868名です。なお、区立中学校等には令和6年5月1日時点で8,280名の生徒が在籍しています。

江東区では、毎週水曜日を「Challenge Wednesday」として、こどもたちが自主学習や習い事など主体的な活動ができる日を設けております。また、江東区の部活動ガイドラインでは土曜日・日曜日のいずれかを休養日とすることとしており、一般的な週の活動日は休日を含め、最大で5日間となります。

活動日数は、週5日活動している部活動もあれば、大会のみの参加で通常の活動がない部活動もあり、部活動によって大きく異なります。

なお、休日の活動状況のみを見ますと、運動部では多くの部活動で休日の活動を行っており、回数としては「週1日」が最も多くなっております。一方で、文化部は吹奏楽部など一部の部活動を除き、多くの部活動が休日の活動を行っていない、又は時期を限定して実施しています。

(3) 部活動の地域連携の状況

江東区では、顧問の代わりとなる部活動指導員、及び顧問と共に技術的指導を行う外部指導員を導入しており、公費により配置がされています。また、それ以外にも、各部活動の部費などにより外部の指導者を招いている部活動もあります。

部活動指導員や外部指導員などの外部指導者を配置している部活動数は、121部（38.9%）となっております。

(4) 休廃部の状況

区立中学校等における生徒数は、現時点では大きな減少は見られませんが、例年廃部や休部となる部活動が出ています。要因は様々ですが、主なものとしては、部活動単位で人数が確保できないことや、顧問を担ってきた教員が人事異動等で不在となり、後継者が確保できないことなどが挙げられます。

2. 意識調査

(1) 調査の概要

江東区では、区立中学校等の部活動に関する実態を把握するため、令和6年7月に、教員・生徒・保護者及び一部小学校の6年生児童及びその保護者に向けてそれぞれ調査を実施しました。

●調査期間：令和6年7月5日（金）～7月19日（金）

●調査方法：一人一台端末等からWEB上のアンケートフォームにアクセスし、回答

①生徒意識調査

調査対象者	江東区立中学校・義務教育学校（後期課程） 生徒
対象者総数	8, 280名（令和6年5月1日時点生徒数）
回答者数	4, 561名
調査項目	14項目

②教員意識調査

調査対象者	江東区立中学校・義務教育学校（後期課程） 教員
対象者総数	424名（令和6年5月1日時点教員・期限付き任用職員数）
回答者数	274名
調査項目	6項目

③中学生保護者意識調査

調査対象者	江東区立中学校・義務教育学校（後期課程） 保護者
対象者総数	— 名（参考：令和6年6月末時点「すぐーる」登録保護者数：9, 616名）
回答者数	2, 523名
調査項目	8項目

④小学6年生意識調査

調査対象者	江東区立小学校・義務教育学校（前期課程）のうち6校の小学6年生児童
対象者総数	— 名
回答者数	353名
調査項目	8項目

⑤小学6年生保護者意識調査

調査対象者	江東区立小学校・義務教育学校（前期課程）のうち6校の小学6年生児童の保護者
対象者総数	— 名
回答者数	155名
調査項目	9項目

(2) 調査結果の分析

《生徒対象意識調査》

①部活動の現状（質問１～８）

回答のあった生徒の所属している部活動のうち、約７割の部活動が休日の活動を行っており（質問６： 66.2%）、その９割が毎週土曜日から日曜日に活動を行っております（質問７： 90.3%）。

休日の活動時間については、約半数が「ちょうどよい」と感じておりますが（質問８：49.7%）、一方で、４割程度の生徒は「どちらかというとき（長い）」「多い（長い）」（計 40.7%）と感じていることが分かりました。

なお、平日については、同じく約半数が「ちょうどよい」と回答しておりますが（質問５：49.9%）、「どちらかというとき（長い）」「多い（長い）」は計 28.1%となっており、休日の活動について「（どちらかというとき）多い（長い）」と感じている生徒は、平日に比べ 12.6%多い結果となりました。

②希望する種目での活動状況（質問９・９の２）

「入学前にやりたかった種目や活動は、あなたの通っている学校の部活動にありましたか」という質問では、約８割が「はい」と答えた一方で、約２割の生徒は希望していた活動ができなかった結果となっております（質問９：「はい」 79.3%、「いいえ」 20.7%）。

なお、質問３で部活動に「所属していない」と答えた人だけを抽出すると、約４割の生徒が「いいえ」と回答しており、希望する活動・種目がなかった生徒の多くが部活動に所属しなかったことが分かります。

また、その種目・活動の内容については、運動系では、バレーボールやダンス、バドミントン、テニスなどが多く、「男子（女子）の部がなかった」という回答も多くありました。文化系では、軽音楽や演劇、美術などが挙げられました（質問９の２）。

③学校部活動以外での活動状況（質問１０・１１）

学校部活動以外での活動については、約３割の生徒が行っており、その理由としては「専門的な指導を受けたり、高いレベルで活動できる」ことが最も高い選択でしたが（質問１１：53.1%）、「学校の部活動にはない種目・活動だから」も高い選択率となっております（同：35.3%）。

④学校部活動やその他の団体で活動をしている目的（質問１２）

学校部活動やその他の団体で活動を行う目的としては、若干「大会やコンクール等で結果を出すよりも、楽しく活動するため」が「技術を向上させたり、大会やコンクール等で結果を出すため」を上回りましたが（質問１２：46.9%、45.4%）、ほぼ同程度の選択率となりました。

⑤地域クラブ活動に求めること（質問１３・１４）

活動の頻度としては、現在の休日の部活動同様に「毎週土曜日から日曜日のどちらかに活動したい」が最も高い選択率となりましたが（質問１３の１：32.4%）、次いで「休日の活動には参加したくない」が高い選択率となりました（同：28.8%）。

なお、部活動加入者・未加入者別に集計を行ったところ、未加入者の方が「休日の活動には参加したくない」の選択率が高いことが分かります（34.2%）。

チームメイトについては、「特に気にしない」と回答する生徒が最も多く（質問13の2：34.6%）、次いで「自校の生徒だけで活動したい」となっております（同：20.7%）。

活動場所については、「家に近ければ学校以外の場所でもよい」が最も多く（質問13の3：35.0%）、次いで「自校の学校で活動がしたい」となっております（同：18.2%）

活動内容としては、運動系では「ダンス」が最も多く（質問14：回答数70）、文化系では「軽音楽・音楽」が最も多い回答となりました（同：回答数53）。

地域クラブ活動で出来たらいいな、と感じることについては、「好きな活動を楽しみたい」が最も選択率が高く（質問13の4：47.4%）、次いで「学校の部活動にはないような競技や種目に取り組みたい」、「専門性の高い指導者に、平日に所属している部活動とは違う方法で教えてもらいたい」が高い選択率となっております（同：30.3%、26.4%）

学校の部活動にない種目・分野で「参加したい」と思う活動内容としては、運動系では「ダンス」が最も多く（質問14：回答数70）、文化系では「軽音楽・音楽」が最も多い回答となりました（同：回答数53）。

《教員対象意識調査》

①部活動の顧問の現状（質問1・2）

回答者のうち約9割が運動部・文化部（又は両方）の顧問を担っており（質問1：計92%）、その種目の経験については、約半数が「全くない」という現状となっております（質問2：46.4%）。

②兼職兼業への意識（質問3・4）

休日等の勤務時間外に兼職兼業し、有償で地域クラブの指導を行いたい、という質問については、約7割が「したくない」「どちらかというとしたくない」と回答しておりますが（計71.0%）、一方で、約3割が「したい」「どちらかというしたい」と回答しております（計29.0%）。

運動部・文化部顧問別にみますと、文化部顧問の「したくない」「どちらかというとしたくない」は約9割となっており（計88.3%）、運動部顧問と比較して高くなっていることが分かります（運動部顧問：計61.3%）。

また、勤務先としては、「勤務地の生徒が参加する地域クラブ」が最も高い選択率となっております（質問4：80.8%）、「自宅の近くの地域クラブ」も高い選択率となっております（同：45.2%）。

《中学生対象意識調査》

①指導者について（質問6）

学校部活動や地域クラブでの指導者は誰がよいと思うかという質問では、「学校の先生と外部の人、どちらでもよい」が最も高く（質問6：31.7%）、次いで「学校の先生と外部の人、どちらにもいて欲しい」となっております（同：31.3%）。

「外部の人がよい」や「専門的な指導ができなくても、学校の先生がよい」はどちらも低い選択率となっており（同：2.3%、3.0%）、保護者の方たちが「専門性」を重視していることが伺えます。

②費用負担について（質問7）

費用負担があることについてどう思うかという質問に対しては、「メリットがあれば、受け入れてもよい」が最も高く（質問7：59.7%）、次いで「持続可能な仕組みのためには必要である」となりました（同：31.6%）。いくらまでなら負担してもよいかという質問については、月額1,000円が最も多く（質問8：22.3%）、月額1,000円～3,000円が約6割を占めました（同：計59.1%）。

一方で、質問7で「よりよい技術指導などのメリットがあっても受け入れられない」を8.7%が選択しているほか、質問8においても「0円（負担したくない）」を8.7%が選択しており、費用負担の設定次第では参加ができなくなる生徒が出る可能性もあります。

《小学6年生対象意識調査》

①中学校の部活動への認識（質問3～6）

回答者のうち、中学校への入学後、部活動に「入りたい」と回答したのは約7割でした（質問3：74.5%）。「入りたくない」と回答した約2割（同：15.9%）の理由としては、「興味のある部活動がなさそうだから」が最も高く（質問6：47.1%）、次いで「学校以外のクラブチームなどで活動したいから」となっております（同：35.3%）。

②地域クラブ活動への認識（質問7・8）

学校部活動の地域移行についての認識では、「自分の通っている中学校で部活動がしたい」「部活動は同じ中学の生徒だけでやる方がよい」「指導は学校の先生がよい」といった、従来の部活動の形式を連想させる選択肢は、計45.0%となり、「地域のクラブなどで、他の中学校の生徒と一緒に活動をするのは面白そう」「学校の先生ではない指導者に教わるのは面白そう」「自分の通っている学校じゃない場所で活動をするのは面白そう」といった、地域クラブ活動を連想させる回答は計50.4%となりました。

《小学6年生保護者対象意識調査》

①中学校の部活動への認識（質問4）

回答者のうち、中学校への入学後、こどもを部活動へ加入させたいと感じている保護者は96.8%となりました（質問4）。

②指導者について（質問7）

学校部活動や地域クラブでの指導者は誰が良いと思うかという質問では、「学校の先生と外部の人、どちらでもよい」が最も高い選択率となりました（質問7：48.4%）。中学生保護者と比較しますと、16.7%も高い選択率となっております。

また、「専門的な指導ができるなら、学校の先生がよい」「専門的な指導ができなくても、学校の先生がよい」の選択率は計8.3%と、中学生保護者の回答（計13.7%）と比較すると低くなっております。

③費用負担について（質問8・9）

費用負担があることについてどう思うかという質問に対しては、「メリットがあれば、受け入れてもよい」が最も高く（質問8：60.6%）、次いで「持続可能な仕組みのためには必要である」となりました（同：32.9%）。中学生保護者の選択率とほぼ同様の結果となっております。

また、いくらまでなら負担してもよいかという質問については、月額5,000円が最も多く（質問9：27.7%）、月額3,000円～5,000円が約半数を占めました（同：計52.2%）。

一方で、質問8で「よりよい技術指導などのメリットがあっても受け入れられない」を6.5%が選択しているほか（中学生保護者：8.7%）、質問9においても「0円（負担したくない）」を4.5%が選択しております（中学生保護者：8.7%）。

第3章

推進方針・重点取組



1. 区の推進方針・達成目標

(1) 推進方針

区立中学校等の部活動を学校教育から社会教育分野へ地域移行し、学校や行政だけでなく、区内で活動を行っているスポーツ・文化芸術に携わる団体等が一体となり、こどもたちが将来にわたりスポーツ・文化芸術に触れあう環境を創出していきます。

【部活動改革により期待される効果】

- こどもたちの活動範囲が広がり、従来の学校部活動の枠を超え、様々な団体で自分の趣味・嗜好に合った活動が選択できるようになります。
- 望まない形で顧問に従事している教員の負担が軽減され、本来業務に注力できることで、こどもたちの教育の質の向上に繋がります。

(2) 計画期間中の達成目標

休日の学校部活動を地域クラブ活動へ移行し、教員の負担がない指導体制を構築

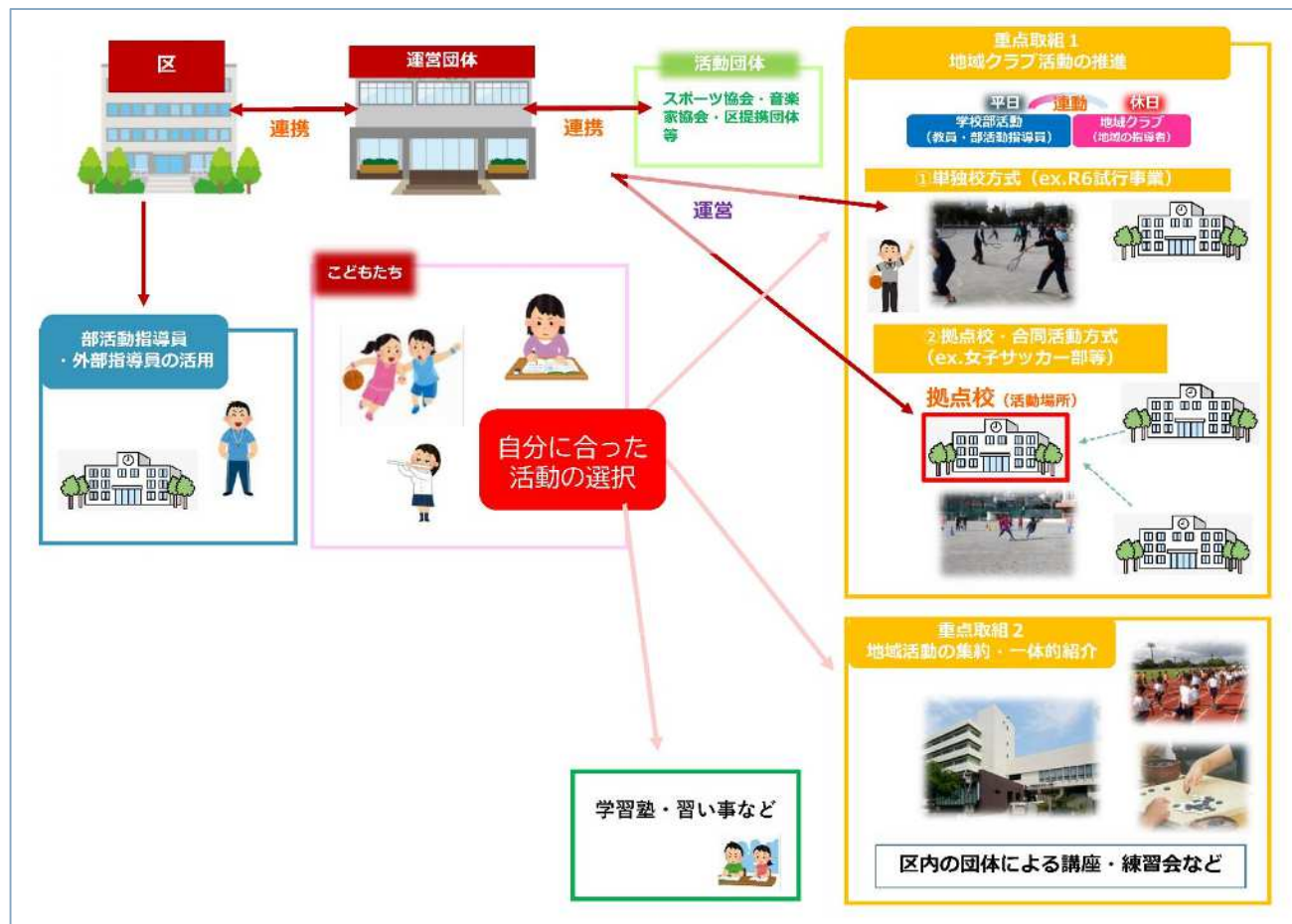
国のガイドラインにおいては、まずは休日の部活動の地域移行を推進すること、また、都の推進計画においても、まずは休日における地域の環境整備を着実に進めることとされています。

江東区においても、今回の計画期間において、まずは週休日等（土曜日・日曜日・祝日、学校閉庁期間、年末年始）を中心に、教員の負担がない指導体制の構築を図るとともに、こどもたちの休日活動の選択の幅を広げる仕組みを構築します。

また、引き続き地域連携の取り組みを進め、平日の部活動の在り方についても、並行して検討を進めてまいります。

2. 達成目標の実現に向けた重点取組

達成目標の実現に向け、令和8年度以降、以下の取り組みを推進していきます。なお、重点取組1と2を総称して「江東区スタイル」と呼びます。



- 重点取組1 地域クラブ活動の推進（地域移行）
- 重点取組2 地域活動の集約・一体的紹介（地域移行）

◇関連する取組 部活動指導員・外部指導員の活用（地域連携）

【令和7年度中】

- 行政による地域クラブの推進のため、運営団体・実施主体の構築を図ります。
- 各学校と協議し、学校ごとの地域移行計画を策定していきます。
- 全校での試行運用を実施します。

【令和8年度以降】

- 地域連携と併用しつつ、段階的に休日部活動の地域移行を進めていきます。
- 区内の活動団体と連携しつつ、地域展開の環境整備を進めていきます。

重点取組１ 地域クラブ活動の推進（地域移行）

国や都が推進する、学校部活動の地域移行は、本区の部活動改革においても主要な取組みとなります。

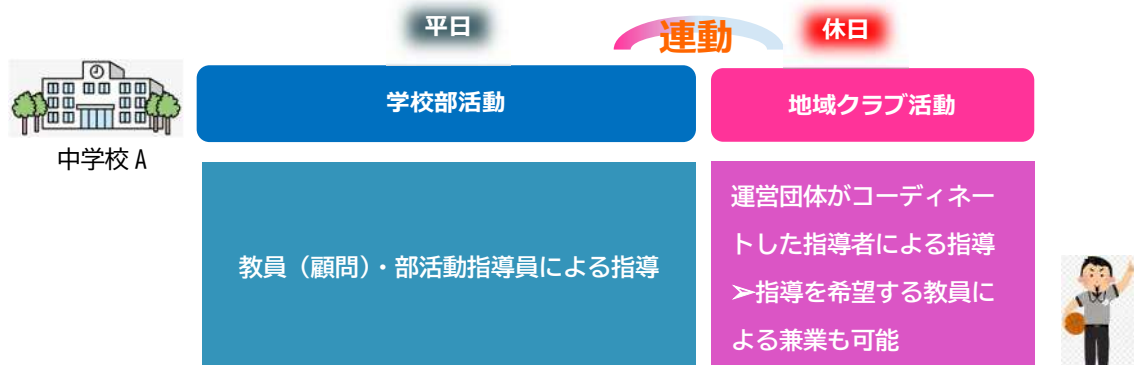
地域移行の推進により、生徒にとっては、従来の学校部活動に比べ、在籍する学校に左右されずに活動の場を選択することや、より専門性の高い指導を受ける可能性が広がり、スポーツや文化芸術活動を通じたより良い成長機会の確保につながります。また、指導を希望しない教員は部活動に携わる必要がなくなり、教員の働き方改革にも寄与します。

一方で、平日の部活動と休日の活動が併存する状況下においては、部活動として大会参加を目指す場合もあることなどから、同じ学校の生徒と活動を行っていききたいというニーズも高いことが想定されます。また、適切な指導対価のもと、引き続きスポーツや文化芸術活動の指導を行っていききたい教員も一定数いることが想定されます。

江東区では、これまで取り組んできた、部活動の地域連携の仕組みを活かした地域移行のスタイルを構築していきます。また、勤務時間以外でも、生徒とスポーツや文化芸術活動を行いたい教員は、兼業兼職制度により指導に携われるよう環境を整備していきます。

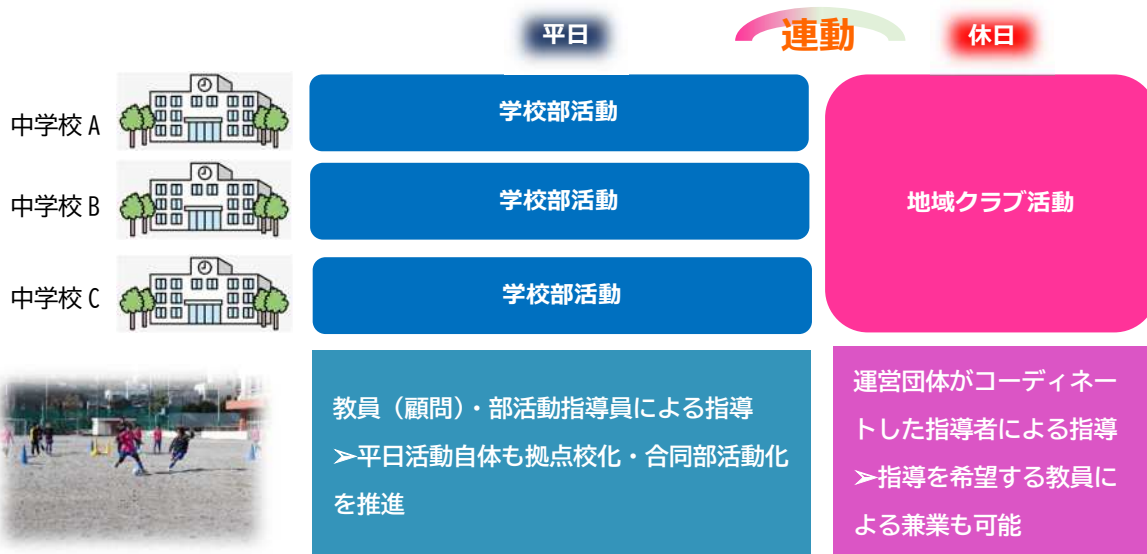
（１）想定パターン

- ①単独型 ：現在の学校部活動を母体に、休日のみ地域の指導者が指導を行います。



②拠点校型・合同実施型

- ：拠点校方式や近隣の学校などとの合同活動に地域の指導者が指導します。



（２）運営団体と実施主体

国ガイドラインでは、地域クラブ活動の実施にあたり、運営団体及び実施主体の整備をすることとしております。

- ・運営団体：各地域クラブ活動を統括する団体等を指します。
- ・実施主体：各地域クラブ活動を実際に行うクラブを指します。

運営団体と実施主体は同一の団体となることも想定されます（本推進計画内ではまとめて「運営団体」と表記）。区では、改革推進期間の最終年度である令和７年度中に、８年度以降の運営体制を整備していきます。

（３）地域連携との相違

これまで区で取り組んできた地域連携は大きく外部指導員や部活動指導員の配置があります。

いずれも多く为学校でその役割に応じた活用を行っておりますが、一方でその課題もあります。

外部指導員の場合、学校で人材を探していることが多く、その業務的負担が生じること、また、部活動指導員は区で雇用を行い、学校の要望をもとに配置を行います。希望する種目とのミスマッチが生じてしまっていることなどが挙げられます。

地域移行においては、運営団体が学校の意向を聞きながら、人材の募集・配置を行い、平日部活動から円滑に地域クラブ活動へ移行できるよう、学校と連携しながら進めていきます。


	地域連携	地域移行
指導者	<ul style="list-style-type: none">・外部指導員 顧問と共に生徒の技術的な指導を行います（有償ボランティア）。・部活動指導員 教員に代わり部活動の顧問を行います（会計年度任用職員）。	<ul style="list-style-type: none">・地域クラブ活動指導者（実施主体） 運営団体に雇用等された指導者が指導を行います。
責任主体	学校	運営団体

(4) 地域移行後のイメージ

学校単位で見た際の休日活動の地域移行後の活動イメージは以下のとおりです。

休日の活動は運営団体が責任主体となり、学校の意向を聞きながら、休日部活動の地域クラブ活動化を推進していきます。

一方で、単独型で開始した場合においても、人数の少ないクラブなどは、近隣校で実施するクラブとの合同化を進めるなど、持続可能な活動としていきます。

		平日	休日
	部活動A	教員（顧問）による指導	【地域移行】 地域クラブ指導員に登録した指導者による指導
	部活動B	【地域連携】 部活動指導員による指導	【地域移行】 地域クラブ指導員に登録した部活動指導員による指導 部活動指導員兼業型
	部活動C	【地域連携】 外部指導員・教員による指導	【地域移行】 地域クラブ指導員に登録した外部指導員による指導 外部指導員兼業型
	部活動D	教員（顧問）による指導	【地域移行】 地域クラブ指導員に登録した教員による指導 教員兼業型
	部活動E	合同部活動のため他校教員による指導	【地域移行】 地域クラブ指導員に登録した他校教員による指導 教員兼業型
	部活動F	教員（顧問）による指導	休日は活動せず

※上記イメージは全ての休日部活動が地域移行した後のもの

（５）学校との連携

運営団体は、地域クラブ活動の実施にあたり、学校と連携を図り活動を行っていくものとします。

【運営団体と学校の役割（例）】

	運営団体	学校
指導者の確保	・各校の移行計画に沿った指導者の確保・研修	・移行計画の作成 ・指導を希望する教員の兼職・兼業の承認
学校と地域クラブ活動間の調整	・定期的な打合せの開催 参加者例： （１）学校管理職 （２）学校部活動顧問 （３）地域クラブ活動指導者 （４）運営団体代表・区 等	・活動場所（校内）の提供 ・用具の提供
休日の地域クラブ活動の実施	・緊急時の連絡体制構築 ・定期的な巡回	・校長等への連絡体制
指導者及び参加者の保険	・独自の保険加入	—

重点取組２ 地域活動の集約・一体的紹介（地域移行）

江東区には既に、地域のスポーツ、文化芸術団体、社会教育団体などが数多く存在し、多様な活動を行っております。

今回の学校部活動の地域移行に合わせ、生徒の活動機会が学校での活動に限られることなく、区内で行われている様々な活動へ展開されていくことは、生徒の選択肢が広がるのみならず、地域で実施されている文化芸術・スポーツ活動の活性化にもつながります。

区で定めた一定の要件を満たした活動を「地域クラブ活動」として集約し、生徒たちが主体的に選択できる体制を構築します。

➤ 達成目標：区内団体等と連携し、中学生が参加可能な情報を集約し、提供する体制を構築

➤ 関連する取組：部活動指導員・外部指導員の活用（地域連携）

部活動指導員や外部指導員など、地域の方の協力を得て、学校部活動を運営する取組を「地域連携」と言います。

国は、地域移行の推進を掲げつつ、その過渡期においては地域連携を併用することを推奨しております。

平日も含めた部活動の完全な地域移行にはまだ多くの時間がかかることが予想されることから、引き続き、地域連携の取り組みを維持しつつ、並行して地域移行を進めていきます。

3. 目標達成に向けた課題

ここでは、8年度以降の部活動改革に取り組むにあたり、課題となる事項を整理します。今後、これらの課題を関係者と共に解決していき、部活動改革に取り組んでいきます。

(1) 指導者の質の確保

江東区は多くの学校と部活動が設置されている状況となっており、江東区スタイルの実現のためには、多くの指導者を確保していく必要があります。

しかし一方で、心身の発達の上にある生徒を指導するには、過度な練習や不適切な指導がされないよう、指導者の質の確保も重要な課題となります。

運営団体と区が連携し、指導者に対する研修体制を設けていきます。

(2) 受益者負担

これまでの学校部活動は、教員の善意により成り立っていた側面が多分にありました。

今後、地域移行後の地域クラブ活動では、指導者の人件費など、クラブの運営にあたり必要となる経費が発生していきます。それらは、参加者からの会費などにより賄われていくこととなりますが、その結果、保護者にとっては、現行の学校部活動と比較して高額な会費を負担しなければならないことが考えられます。

持続的にクラブ活動を運営していくためには、一定額の会費の徴収は必要です。しかしながら、その金額によって子どもたちの活動機会が失われないよう、可能な限り低廉な会費を設定することが求められます。特に、経済的に困窮する家庭の中学生に対する地域クラブ活動の参加費用の支援等については、重要な検討課題となります。


(3) 各種団体との連携

地域クラブ活動の指導者の担い手として、国ガイドラインでは多様な運営団体・実施主体が想定されています。実際に地域クラブ活動の運営・指導にあたる団体はもちろん、当面の間は指導の予定がない各種目の団体とも、部活動改革に関する取り組みの意見交換や協議を密に行い、合意形成を図りながら、連携していく必要があります。

(4) 指導を希望する教員が継続できる環境づくり

部活動改革は、望まない教員に過度な負担が生じない体制を構築することを目的の一つとしております。しかし一方で、意向調査においても回答があったように、指導を希望する方も一定数おります。そして、長期的な視点で見た場合、そうした方たちが主体的に指導を続けていくことは、スポーツ・文化芸術分野における指導人材の育成にも繋がります。

地域移行後の指導においては、運営団体に雇用され、他の指導者と同様の管理と報酬のもとで指導を行って頂く必要があります。指導を望む教員が継続して指導できるよう、休日の指導を行う際の兼職・兼業の手続きを整備していきます。

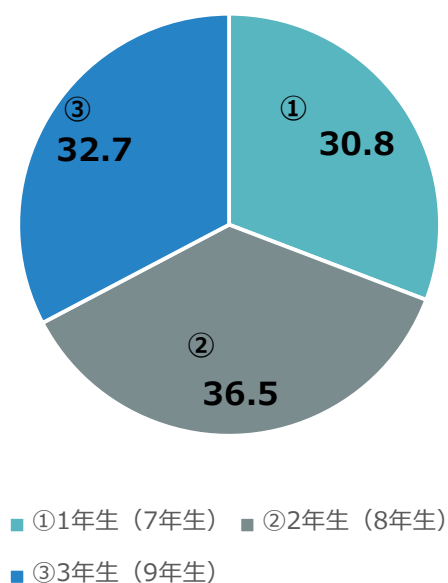


參考資料

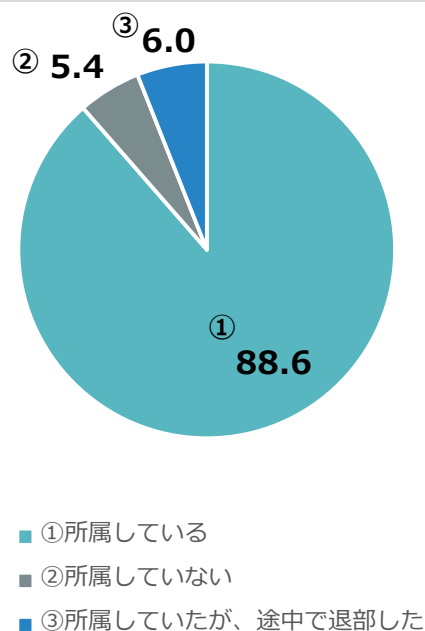
【参考】アンケート調査結果

(1) 生徒意識調査 (※質問1「通っている学校を教えてください」は回答省略)

質問2 学年を教えてください。



質問3 あなたは部活動に所属していますか。



質問4 【質問3で「所属していたが、途中で退部した」を選択した人のみ】

途中で退部した理由として最も近い選択肢を選んでください。

選択肢	選択率
1 部活動の他に優先したいことができた	32.4%
2 人間関係が影響した	22.5%
3 活動スタイル（活動方針）が合わなかった	14.9%
4 活動が厳しかった（練習などが大変だった）	8.0%
5 思っていた活動内容と違っていた	6.2%
6 その他	14.2%
- 回答なし	1.8%

【「その他」の主な意見】

- ・習い事(スポーツ)や勉強との両立が難しかった。
- ・部活の時間帯に塾や習い事が入ってしまい、そちらを優先したいと思ったから。
- ・クラブチームに所属していて中々行けなかった。
- ・もっと強いクラブチームで活動がしたかった。

質問5 【質問3で「所属している」を選択した人のみ】

現在所属している部活動の、平日（土曜・日曜・祝日・長期休業期間以外）の活動頻度・時間について、どのように感じていますか。

選択肢		選択率
1	ちょうどよい	49.9%
2	どちらかといえば多い（長い）	17.4%
3	多い（長い）	10.7%
4	どちらかといえば少ない（短い）	10.2%
5	少ない（短い）	8.0%
-	回答なし	3.9%

質問6 【質問3で「所属している」を選択した人のみ】

あなたの所属している部活動は、休日（土曜・日曜・祝日・長期休業期間）も活動していますか。

選択肢		選択率
1	休日も活動している	66.2%
2	休日は活動していない	23.0%
3	休日に大会やコンクール等がある場合だけは活動している	8.0%
-	回答なし	2.9%

質問7 【質問6で「休日も活動している」を選択した人のみ】

休日の部活動の活動頻度について、最も近い選択肢を選んでください。

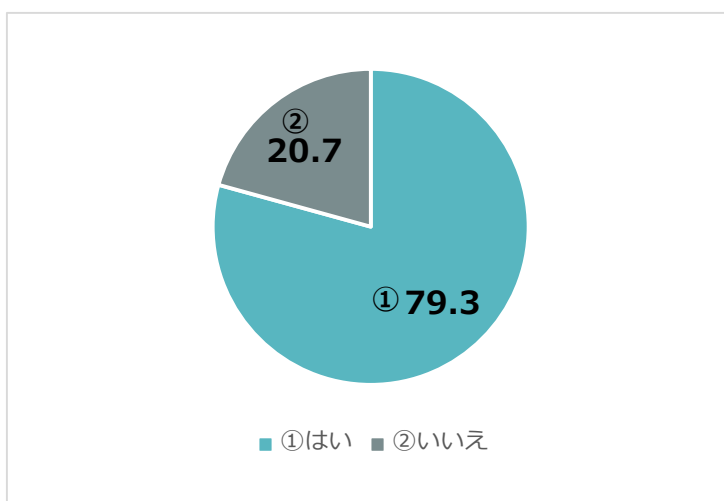
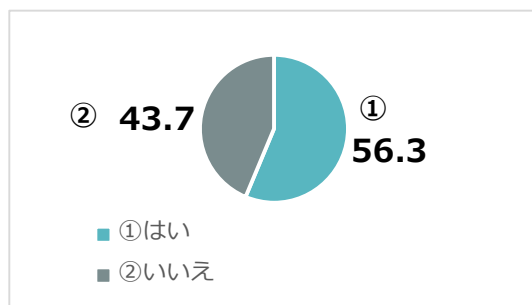
選択肢		選択率
1	毎週、土曜か日曜のどちらかに活動がある	90.3%
2	2週間に1回程度の割合で休日に活動がある	5.5%
3	月に1回程度の割合で休日に活動がある	2.0%
4	月に1回よりも少ない割合で休日に活動がある	1.7%
-	回答なし	0.5%

質問8 【質問6で「休日も活動している」を選択した人のみ】
休日の部活動の活動頻度について、どのように感じていますか。

選択肢		選択率
1	ちょうどよい	49.7%
2	どちらかという和多い（長い）	23.3%
3	多い（長い）	17.4%
4	どちらかというと少ない（短い）	5.5%
5	少ない（短い）	3.8%
-	回答なし	0.3%

質問9 入学前にやりたかった種目や活動は、あなたの通っている学校の部活動にありましたか。

【クロス集計】質問3で「所属していない」者のみ



質問9の2 【質問9で「いいえ」を選択した人のみ】その種目・活動が何か教えてください。

運動系			文化系		
	回答数			回答数	
1	バレーボール	30	1	軽音楽	10
2	ダンス	28	1	演劇	10
3	バドミントン	23	1	美術	10
4	(硬式・軟式) テニス	21	4	茶道	7
5	弓道	15	4	合唱	7

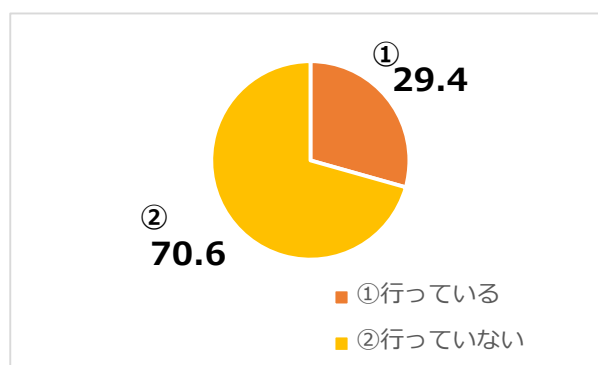
【運動系その他】

サッカー、水泳、卓球、
陸上、野球、体操

【文科系その他】

書道、科学、英語、
eスポーツ、将棋、囲碁

質問10 あなたは、休日に、学校以外の団体(地域のクラブやサークル、習い事など)で、スポーツや文化的な活動(音楽・ダンス・演劇等)を行っていますか。



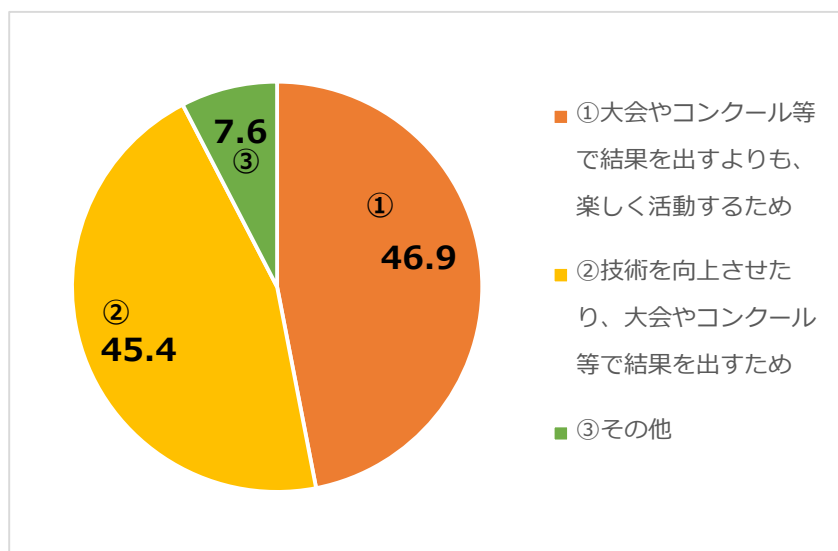
質問11 【質問10で「行っている」を選択した人のみ】

あなたが、休日に学校以外の団体で活動している理由としてあてはまるものを選択肢の中から選んでください。(複数選択可)

選択肢		選択率
1	専門的な指導を受けたり、高いレベルで活動できるから	53.1%
2	学校の部活動にはない種目・活動だから	35.3%
3	自分の将来の目標につながると思ったから	32.2%
4	自分のペースで活動できるから	26.1%
5	学校以外の人と活動したかったから	13.4%

質問12 あなたにとって部活動で練習や活動に取り組んでいる目的は、どちらの選択肢に近いですか。より近い選択肢を選んでください。

(部活動には参加していないが、学校以外の団体で活動している場合には、その活動について回答してください。)



【「その他」の主な意見】

- ・どちらともいえない/どちらにも該当する。
- ・学校以外の団体では大会で結果を出すため、部活動では体力が減らないようにするためと楽しくやるため。
- ・苦手なことを克服したいから。
- ・将来の夢のため。

質問13 休日の部活動に代わる「地域クラブ活動」について、もしあなたが「地域クラブ活動」に参加するとしたら、今のあなたの気持ちに最も近い選択肢を選んでください。

質問13の1 休日の「地域クラブ活動」はどのくらいの頻度で活動したいですか。あなたの気持ちに最も近い選択肢を選んでください。

選択肢		選択率
1	毎週、土曜か日曜のどちらかに活動したい	32.4%
2	休日は自由にしたいので、休日のクラブ活動等には参加したくない	28.8%
3	2週間に1回程度の割合で休日に活動したい	19.7%
4	月に1回程度の割合で休日に活動したい	10.5%
5	定期的な活動ではなく、イベントのみ参加したい	8.7%

【クロス集計】部活動加入者・未加入者別選択

選択肢		部活動加入者 選択率	部活動未加入者 選択率
1	毎週、土曜か日曜のどちらかに活動したい	31.9%	35.8%
2	休日は自由にしたいので、休日のクラブ活動等には参加したくない	28.1%	34.2%
3	2週間に1回程度の割合で休日に活動したい	20.7%	11.9%
4	月に1回程度の割合で休日に活動したい	10.6%	9.2%
5	定期的な活動ではなく、イベントのみ参加したい	8.7%	8.8%

質問13の2 休日の「地域クラブ活動」に参加するチームメイトについて、あなたの気持ちに最も近い選択肢を選んでください。

選択肢		選択率
1	特に気にしない	34.6%
2	自校の生徒だけで活動したい	20.7%
3	色々な学校の生徒と活動したい	18.8%
-	回答なし	25.9%

質問13の3 休日の「地域クラブ活動」の活動場所について、あなたの気持ちに最も近い選択肢を選んでください。

選択肢		選択率
1	家に近ければ学校以外の場所でもよい	35.0%
2	自校の学校で活動がしたい	18.2%
3	どこでもよい	14.4%
4	家から少し遠くても、区内であればどこでもよい	7.5%
-	回答なし	24.9%

質問13の4 休日の「地域クラブ活動」で、「出来たらいいな」と思うことについて、当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

選択肢		選択率
1	好きな活動を楽しみたい	47.4%
2	学校の部活動にはないような競技や種目に取り組みたい	30.3%
3	専門性の高い指導者に、平日に所属している部活動とは違う方法で教えてもらいたい	26.4%
4	技術の向上や体力の向上など、個人で参加ができる活動がしたい	18.4%
5	平日に所属している部活動と同じ種目で、平日の活動と同じような活動がしたい	16.3%
6	平日に所属している部活動で練習していることが分かっている指導者に教えてほしい	14.8%
7	民間のクラブチームなどで活動したい	5.9%

質問14 学校の部活動にない種目や分野で「これがあったら参加したいな」と思うものがあったら教えてください（自由記述）。

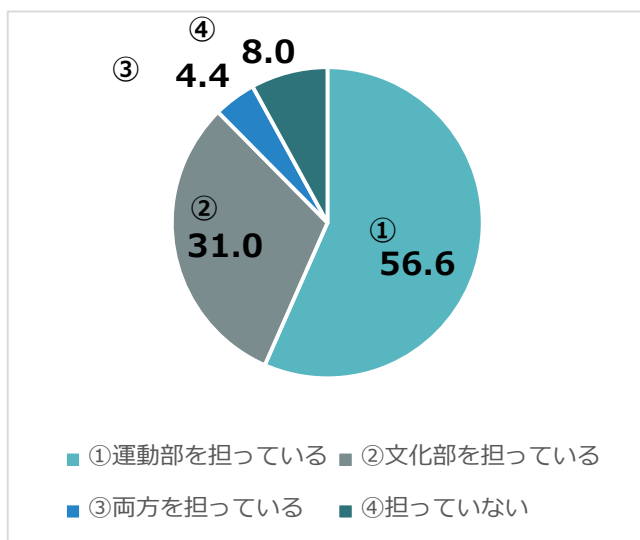
運動系		回答数	文化系		回答数
1	ダンス	70	1	軽音楽・音楽	53
2	バドミントン	39	2	e スポーツ・ゲーム	36
3	弓道	38	3	茶道・華道	26
3	バレーボール	38	4	美術・漫画・イラスト	25
5	水泳	33	5	合唱・歌唱・カラオケ	23

【その他の回答(主なもの)】

(運動系)・サッカー ・卓球 ・ドッジボール ・剣道 ・空手 ・柔道 ・ラグビー ・野球
(文科系)・パソコン・プログラミング ・演劇 ・ボランティア ・写真 ・ロボット研究

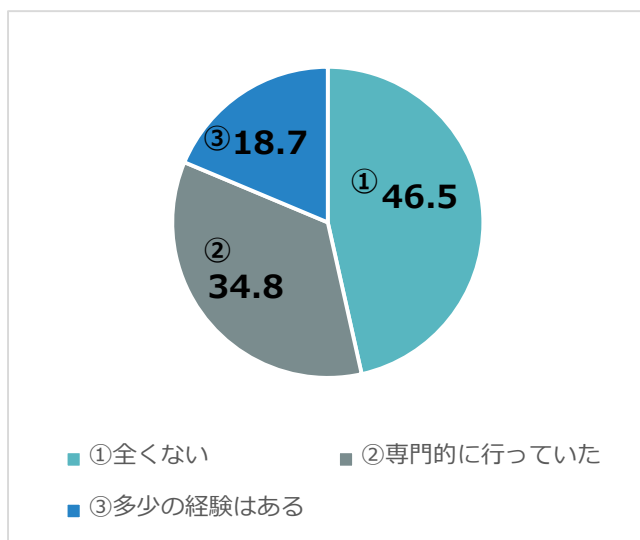
(2) 教員意識調査 (※質問5・6 (自由記述) は回答省略)

質問1 あなたは現在部活動顧問を担っていますか。



【クロス集計】

質問2【質問1で「運動部を担っている」者のみ】

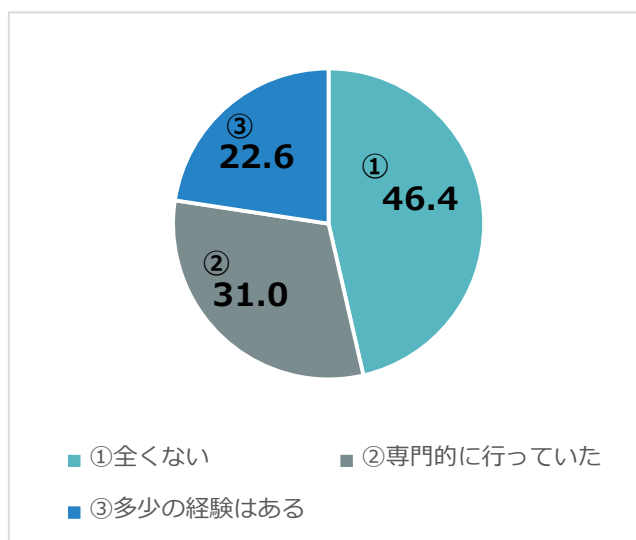


【クロス集計】

質問2【質問1で「両方を担っている」者のみ】

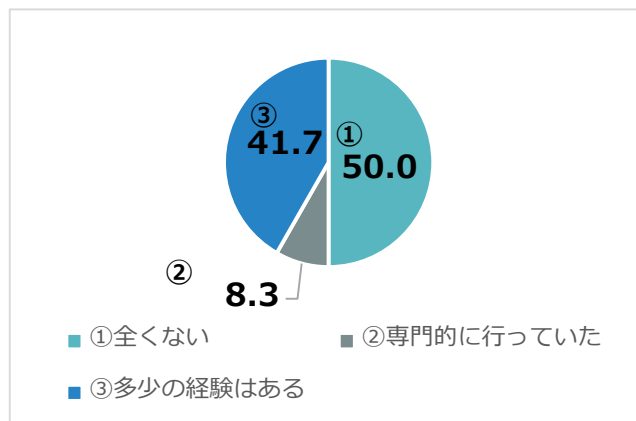
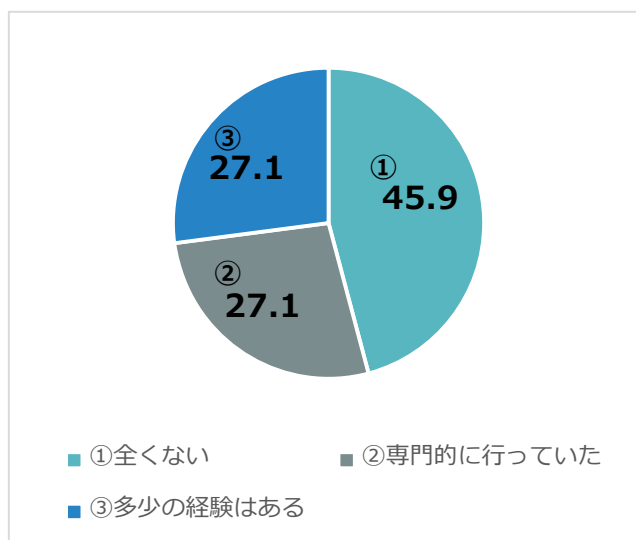
質問2 【質問1で「担っている」を選択した方のみ】

顧問をしている部活動の種目の経験について、最も近い選択肢を選んでください。



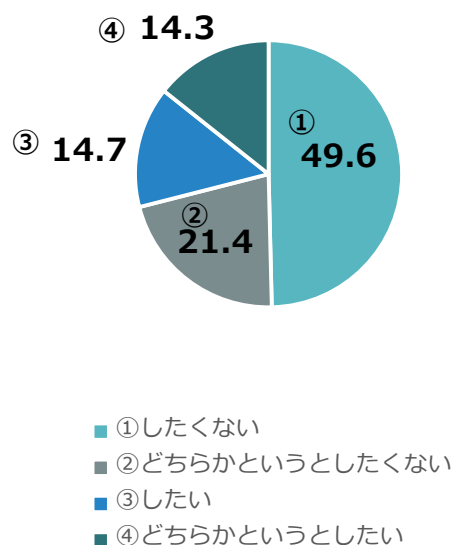
【クロス集計】

質問2【質問1で「文化部を担っている」者のみ】



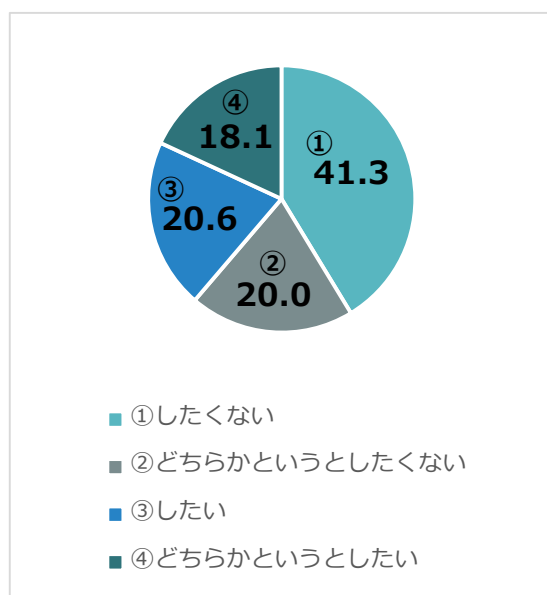
質問3 国は、地域移行後においても希望する教員が指導に携われるよう、兼職兼業の制度を推奨しています。

兼職兼業の制度を利用して勤務時間外に有償で地域クラブの指導をしたいと思いますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。



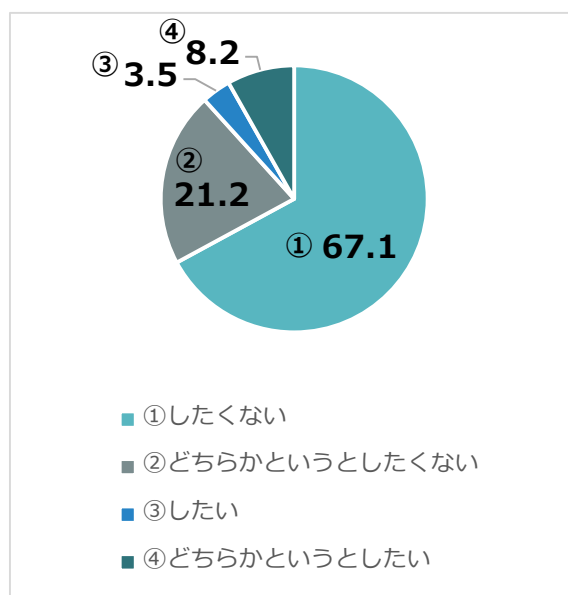
【クロス集計】

質問3【質問1で「運動部を担っている」者のみ】



【クロス集計】

質問3【質問1で「文化部を担っている」者のみ】



質問4 【質問3で「したい」または「どちらかというとしたい」と選んだ方のみ】
どのような団体への兼職兼業を希望しますか。(複数回答可)

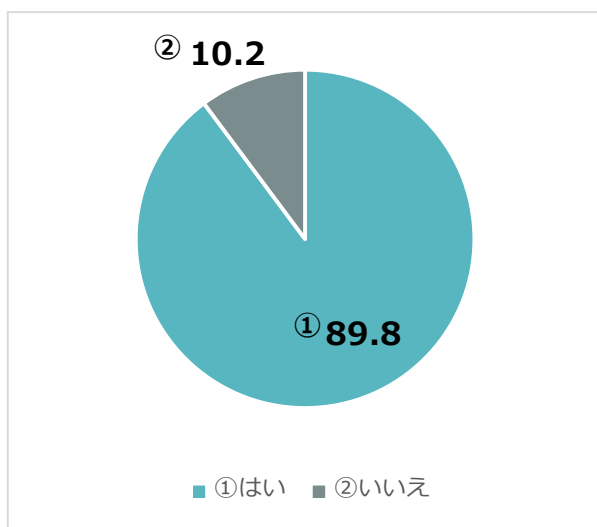
選択肢		選択率
1	勤務地の生徒が参加する地域クラブ	80.8%
2	自宅の近くの地域クラブ	45.2%
3	その他	5.5%
-	回答なし	1.4%

【「その他」の主な意見】

- ・自身が専門的に指導を行える部活動に関わりたい。
- ・あまり移動に時間と費用がかからなければどこでもよい。

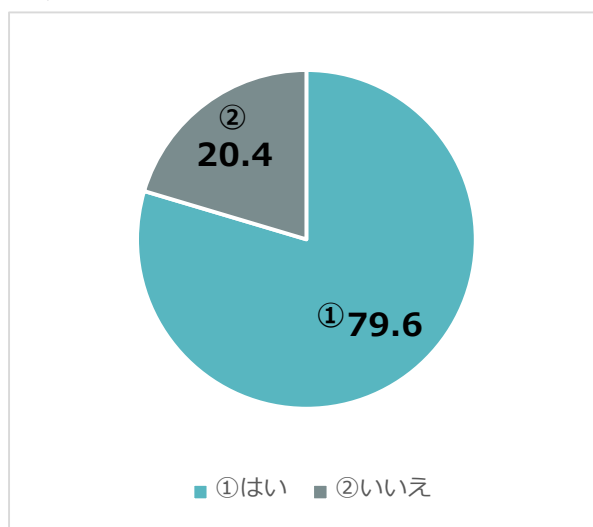
(3) 中学生保護者意識調査

質問1 お子様は学校の部活動に所属していますか(1名でも所属している場合は「はい」を選択してください)。



質問2 【質問1で「いいえ」を選択した方のみ】

学校部活動以外の活動(塾や習い事を含む)に参加していますか。



質問2の2 【質問2で「はい」を選択した方のみ】

その活動を教えてください。

(例:進学塾、サッカークラブ 等)

	内容	回答数
1	塾（進学塾、学習塾、公文等）	61
2	（軟式・硬式）野球	22
3	楽器（ピアノ、ギター、ドラム等）	17
4	サッカー	13
5	ダンス	12

質問3 【質問2で「はい」を選択した方のみ】

その活動の会費(月額)のおよその合計金額を教えてください。

	選択肢	選択率
1	10,001 円～20,000 円	21.2%
2	30,001 円～40,000 円	17.7%
3	50,001 円以上	13.3%
4	5,001 円～10,000 円	12.8%
5	40,001 円～50,000 円	10.3%
6	20,001 円～30,000 円	8.9%
7	1,001 円～5,000 円	7.4%
8	0 円（無料・負担無し）	1.5%
-	答えたくない・回答無し	6.8%

質問4 【質問1で「はい」を選択した方のみ】

お子様が部活動に参加するうえで、どのようなことを期待していますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。

選択肢		選択率
1	心身の成長	51.1%
2	思い出になること	16.7%
3	校内に学級以外の居場所を作ること	11.3%
4	体力の向上	8.7%
5	その種目の技術の向上	7.5%
6	その他	3.0%
-	回答無し	1.6%

【「その他」の主な意見】

- ・すべてに該当する/複数該当する。
- ・コミュニケーション能力の向上。
- ・違う学年の生徒方と触れ合う事により礼節や上手な人付き合いが出来るようになって欲しい。
- ・趣味を増やしてほしい。
- ・上級生と部活動で関係を持つことで、礼儀や言葉遣いを覚える。

質問5 【質問1で「はい」を選択した方のみ】

お子様が部活動に参加するうえで、困りごと・悩み事があれば選択してください。

(複数選択可)

選択肢		選択率
1	特にない	41.8%
2	学業との両立が難しい	20.7%
3	専門的な指導を受けられていない	18.3%
4	部活動の日数・時間が長い	15.8%
5	指導者の指導スタイルに疑問がある	1.3%
6	その他	10.9%
-	回答無し	3.7%

【「その他」の主な意見】

- ・そこまでの熱意を持って参加している訳ではないので大会を目指しているメンバーや先生との温度差が気になる。また、先生の授業以外での負担が大きいようで、部活動は外部の方に任せて先生の負担が減らせるとよい。
- ・やりたい部活がなかったためか、積極的に関われない様子を見せている。
- ・遠征時、親の付き添いがあり自分達で行ける範囲での活動でいいのではないと思う。外部委託には賛成。
- ・先生の負担が大きいと思う。休日はしっかり休んで頂きたい。休日の指導者がいれば負担が減ると思う。
- ・他の習い事との両立が大変。
- ・今は顧問の先生が熱心に指導してくれているが、その顧問の先生が異動され他の学校に行った際に不安。
- ・学校によって専門的な指導を受けるチャンスに格差がある。もしくは希望する部活がない場合は子どもにとって不利益である。学校の先生が顧問で専門的な指導が出来てもいつ異動になるかわからず、同じ質での継続的な活動に不安がある。

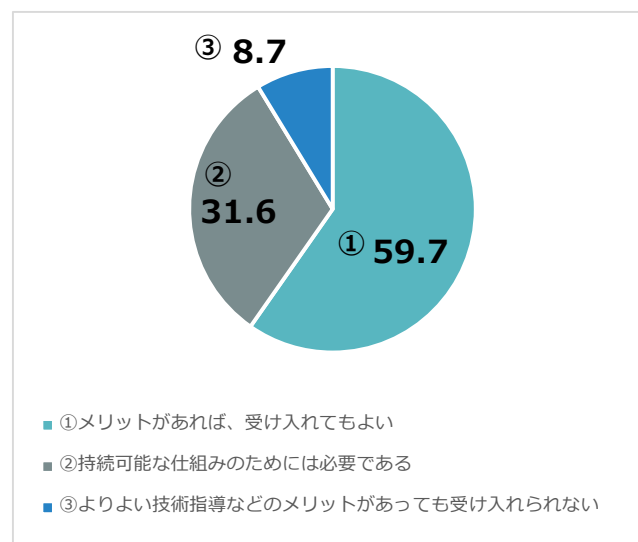
質問6 現在、国の施策により、部活動に教員ではない外部の指導者が指導に入ったり（「地域連携」）、休日の部活動を地域のクラブ活動に変えていく（「地域移行」）動きが進められています。

学校の部活動また「地域クラブ活動」において、どういった方が指導するのが望ましいと思いますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。

※この設問で「外部の人」とは、学校の先生以外の人のことをいいます。

選択肢		選択率
1	学校の先生と外部の人、どちらでもよい	31.7%
2	学校の先生と外部の人、どちらにもいて欲しい	31.3%
3	専門的な指導ができるなら、外部の人がよい	20.9%
4	専門的な指導ができるなら、学校の先生がよい	10.7%
5	専門的な指導ができなくても、学校の先生がよい	3.0%
6	外部の人がよい	2.3%

質問7 休日の部活動が「地域クラブ活動」に代わると、新たな費用負担が発生することが想定されます。費用負担があることについて、どう思いますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。

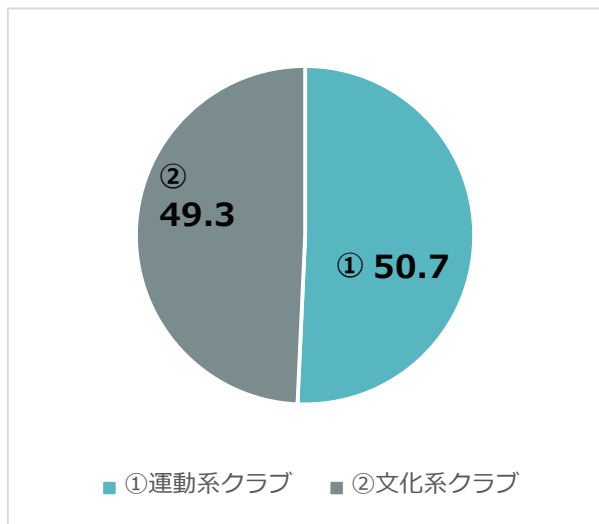


質問8 休日の部活動に代わる「地域クラブ活動（休日のみ毎週1回程度の活動を想定）」において費用負担がある場合、いくらまでなら負担してもよいと思いますか（月額）。

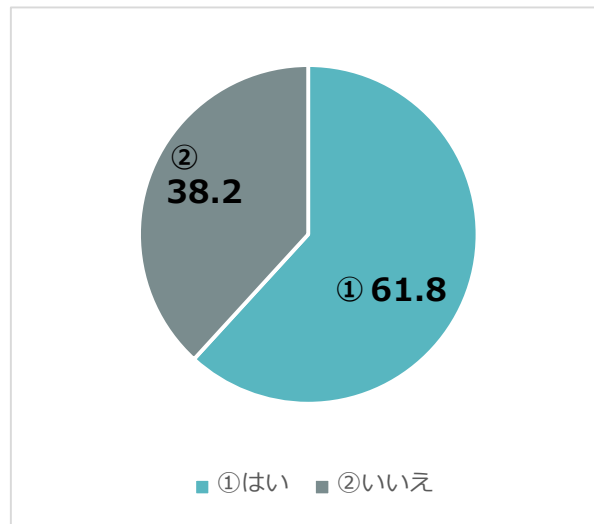
選択肢		選択率
1	1,000 円	22.3%
2	2,000 円	18.5%
3	3,000 円	18.3%
4	5,000 円	13.1%
5	500 円	10.4%
6	0 円（負担したくない）	8.7%
7	4,000 円	4.4%
8	8,000 円	2.5%
9	10,000 円以上	1.9%

(4) 小学6年生意識調査

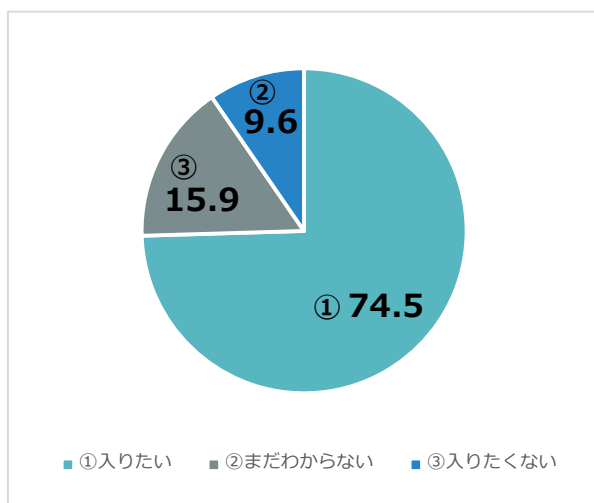
質問1 小学校では、運動系(野球、サッカークラブなど)と文化系(音楽、理科実験クラブなど)のどちらのクラブ活動をしていますか。



質問2 現在、学校以外で何かクラブチームなどに入ったり、習い事(学習塾は除く)などをしたりしていますか。



質問3 中学生になったら、部活動に入りたいですか。



質問4 【質問3で「入りたい」を選んだ人のみ】
部活動で楽しみなこととして、あてはまるもの
を選択肢の中から選んでください。
(複数選択可)

選択肢		選択率
1	体力や知識を身につけることができる	75.7%
2	友達ができる	69.2%
3	一つの競技に真剣に取り組むことができる	41.1%
4	特にない	6.1%
-	回答なし	0.8%

質問5 【質問3で「入りたい」を選んだ人のみ】
部活動で不安なことがあれば教えてください。

選択肢		選択率
1	同級生や先輩と仲良く活動できるか	26.2%
2	特になし	19.8%
3	練習についていくことができるか	17.1%
4	放課後に時間を自由に過ごすことができない	16.3%
5	勉強に遅れが出てしまう	14.8%
-	回答なし	5.7%

質問6 【質問3で「入りたくない」を選んだ人のみ】
部活動に入りたくない理由を教えてください。

選択肢		選択率
1	興味のある部活動がなさそうだから	47.1%
2	学校以外のクラブチームなどで活動したいから	35.3%
3	放課後は勉強や習い事などに専念したいから	14.7%
-	回答なし	2.9%

質問7 今後、中学校の部活動を今とは違うやりかたに変えていこうという計画があります。そのことについて、あなたの意見を教えてください。

選択肢		選択率
1	地域のクラブなどで、他の中学校の生徒と一緒に活動をするのは面白そう	22.1%
2	自分の通っている中学校で部活動がしたい	21.5%
3	部活動は同じ中学の生徒だけでやる方がよい	17.3%
4	学校の先生ではない指導者に教わるのは面白そう	15.0%
5	自分の通っている学校じゃない場所で活動するのは面白そう	13.3%
6	指導は学校の先生がいい	6.2%
7	その他	4.5%

【「その他」の主な意見】

- ・もし、自分の両親がその部活動が得意だったら両親も部活動に参加できるようにしてほしい。
- ・自分の得意分野を先生が認めそれを勧めて教えてくれる部活がしたい。
- ・自分の通っている中学校だけで学校の先生に教わりたいです。
- ・自分のクラブチームの活動を優先したい。

質問8 学校の部活動やそれに代わるクラブ活動で「こんなのがあれば参加したいな」と思うものがあったら教えてください。

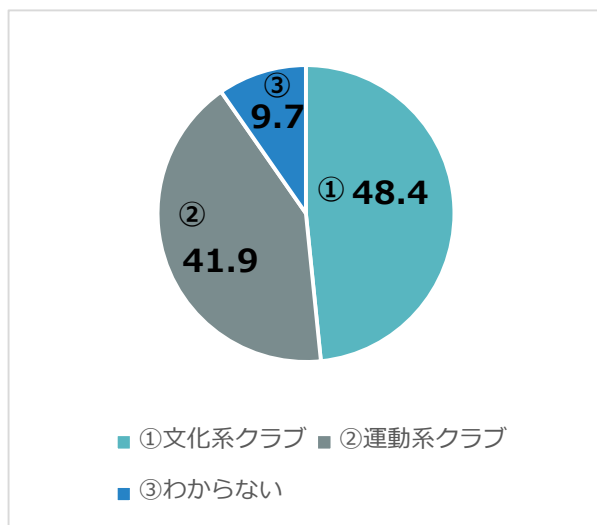
内容		回答数
1	家庭科（料理、裁縫、手芸等）	10
2	ダンス	6
2	野球	6
4	パソコン・プログラミング	5
4	バレーボール	5

【その他の回答(主なもの)】

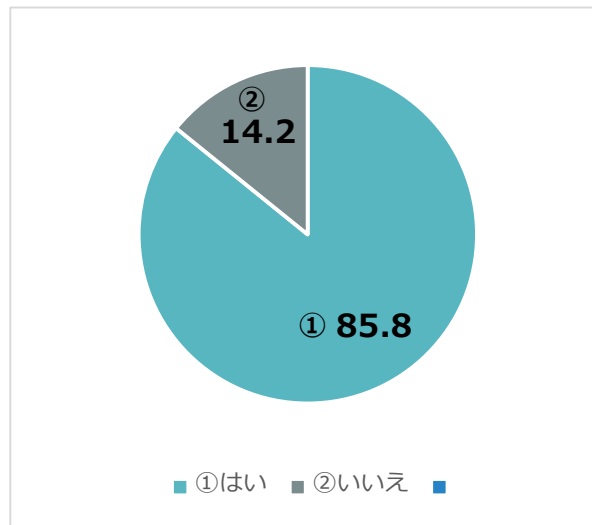
- ・卓球 ・水泳 ・バドミントン ・テニス ・バスケットボール ・音楽 ・縄跳び ・ゲーム ・トレーディングカード
- ・野球 ・茶道 ・演劇 ・ドッジボール ・空手 ・ボランティア ・サッカー ・ゴルフ ・レゴ ・折り紙
- ・みんなで集まって勉強をする活動 ・何をしても良くて、個人でやりたいって人たちが集まるようなところ
- ・NBA の選手が来てくれるバスケットボールの練習 ・気楽に参加できるスポーツの大会 ・ディズニー行きますよクラブ

(5) 小学6年生保護者意識調査

質問1 お子様は現在学校でどちらのクラブ活動に所属していますか。



質問2 お子様は学校のクラブ活動以外の活動(塾や習い事を含む)に参加していますか。



質問2の2【質問2で「はい」を選択した方のみ】

その活動を教えてください。

(例:進学塾、サッカークラブ 等)

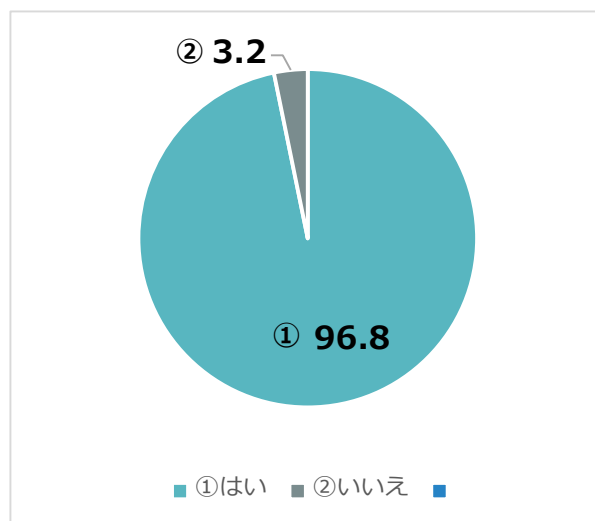
内容		回答数
1	塾（進学塾、学習塾、公文等）	55
2	水泳	23
3	語学（英語、中国語）	13
4	野球	12
5	楽器（ピアノ、ドラム）	10

質問3【質問2で「はい」を選択した方のみ】

その活動の会費(月額)のおよその合計金額を教えてください。

選択肢		選択率
1	5,001 円～10,000 円	21.1%
2	10,001 円～20,000 円	18.8%
3	50,001 円以上	18.0%
4	20,001 円～30,000 円	15.8%
5	30,001 円～40,000 円	9.8%
6	1,001 円～5,000 円	7.5%
7	40,001 円～50,000 円	4.5%
8	0 円（無料・負担無し）	1.5%
-	答えたくない・回答無し	3.0%

質問4 お子様が中学校に入学後、部活動に加入させたいと思いますか。



質問5 【質問4で「はい」を選択した方のみ】

お子様が部活動に参加するうえで、どのようなことを期待していますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。

選択肢		選択率
1	心身の成長	55.3%
2	校内に学級以外の居場所を作ること	17.3%
3	思い出になること	11.3%
3	体力の向上	11.3%
5	その種目の技術の向上	4.7%
6	その他	0.0%
-	回答無し	0.0%

質問6 【質問4で「はい」を選択した方のみ】

お子様が部活動に参加するうえで、不安なことがあれば選択してください。
(複数選択可)

選択肢		選択率
1	学業との両立が難しい	38.0%
2	指導者の指導スタイル	33.3%
3	特になし	28.7%
4	専門的な指導を受けられない	14.7%
5	部活動の日数・時間が短い	6.7%
6	その他	6.7%
-	回答無し	0.0%

【「その他」の主な意見】

- ・少人数の中学校のため部活の種類が少なすぎる。積極的にやりたい部活を選べない。
- ・野球をやってきたので、部活動でやってほしいが、そもそも行く予定の中学に野球部がない。新たに他の運動に興味持つものがあるのかが多少不安。
- ・公立中は顧問の先生の異動があるので不安。
- ・部活動を通して、交友関係を広げ、様々な人と関わる機会を持たせたいと考えている。子どもの自主性が尊重されるような仕組みの検討をお願いしたい。
- ・専門性のみ追求すると、勝つことのためにコミットしてしまわないかが心配。まだ中学生で発達途中なので子供のことが良く分かっている先生が監督として付いてくれると安心。

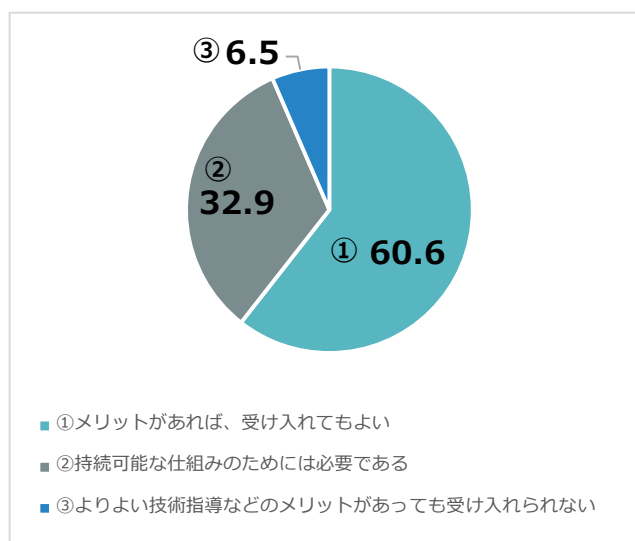
質問7 現在、国の施策により、部活動に教員ではない外部の指導者が指導に入ったり(「地域連携」)、休日の部活動を地域のクラブ活動に変えていく(「地域移行」)動きが進められています。

学校の部活動または「地域クラブ活動」において、こういった方が指導するのが望ましいと思いますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。

※この設問で「外部の人」とは、学校の先生以外の人のことをいいます。

	選択肢	選択率
1	学校の先生と外部の人、どちらでもよい	48.4%
2	学校の先生と外部の人、どちらにもいて欲しい	22.6%
3	専門的な指導ができるなら、外部の人がよい	18.7%
4	専門的な指導ができるなら、学校の先生がよい	7.7%
5	外部の人がよい	1.9%
6	専門的な指導ができなくても、学校の先生がよい	0.6%

質問8 休日の部活動が「地域クラブ活動」に代わると、新たな費用負担が発生することが想定されます。費用負担があることについて、どう思いますか。今の考えに最も近い選択肢を選んでください。



質問9 費用負担がある場合、いくらまでなら負担してもよいと思いますか(月額)

	選択肢	選択率
1	5,000 円	27.7%
2	3,000 円	21.9%
3	1,000 円	16.8%
4	2,000 円	13.5%
5	8,000 円	5.2%
6	0 円 (負担したくない)	4.5%
7	10,000 円以上	3.9%
8	500 円	3.9%
9	4,000 円	2.6%

休日部活動の地域連携・地域移行推進会議

【委員】

No	委員（敬称略）			
1	学識経験者	国土館大学体育学部こどもスポーツ教育学科 教授	教授	喜名 朝博
2	校長代表	江東区立中学校・義務教育学校（後期課程）校長代表	校長	福田 克彦
3	部活動顧問代表 （文化部）	江東区立中学校・義務教育学校（後期課程） 部活動顧問代表	吹奏楽 部顧問	堀江 真太郎
4	部活動顧問代表 （運動部）	江東区立中学校・義務教育学校（後期課程） 部活動顧問代表	ソフト テニス 部顧問	酒井 駿将
5	保護者代表	江東区立中学校 PTA 連合会代表	副会長	和泉 菜摘子
6	地域団体代表	江東区スポーツ協会代表	理事長	飯塚 弘也
7	地域団体代表	江東区音楽家協会代表	会長	栗飯原 雅子
8	関係団体	江東区健康スポーツ公社代表	事務局 次長	平松 紀幸
9	関係団体	江東区文化コミュニティ財団代表	管理課 長	川端 弘一
—	事務局	教育委員会事務局次長、教育支援課長、指導室長、教育委員会事務局統括指導主事、 教育支援課部活動改革推進担当係長 他		
	オブザーバー	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 本多 遥（試行事業連携団体）		

【開催実績及び主な議題】

第1回（令和6年7月3日）

- ・江東区の検討状況と今後のスケジュールについて

第2回（令和6年9月12日）

- ・地域連携・地域移行に係るアンケートの実施結果について
- ・6年度の試行事業と江東区の方向性案について

第3回（令和6年11月29日）

- ・区の推進計画（案）について

第4回（令和7年1月22日）

- ・区の推進計画（案）について

江東区立学校部活動等の地域移行に係る庁内検討会議設置要綱

令和5年5月24日

5江教援第204号

(設置)

第1条 江東区立学校における部活動等の地域移行（部活動等の地域連携及び地域の運営団体又は実施主体による地域スポーツクラブ活動又は地域文化クラブ活動への移行をいう。以下同じ。）に向け、地域移行に係る課題の具体的な解決に向けた検討を行うため、江東区立学校部活動等の地域移行に係る庁内検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(定義)

第2条 この要綱において「部活動等」とは、江東区立小学校（義務教育学校の前期課程を含む。以下同じ。）及び江東区立中学校（義務教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）における教育課程外の学校教育活動としての部活動及びクラブ活動をいう。

(所掌事項)

第3条 検討会議は、次の事項を所掌する。

- (1) 庁内関係部署の情報共有及び相互連携に関すること。
- (2) 施策立案における総合的な整理及び検討に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、地域移行に関し委員長が必要と認める事項

(組織)

第4条 検討会議は、委員長及び委員をもって構成する。

2 委員長は、教育委員会事務局次長をもって充てる。

3 委員は、別表に掲げる者をもって充てる。

(運営)

第5条 委員長は、必要に応じて検討会議を招集し、会務を総理する。

2 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、又は他の方法で意見を聴くことができる。



(庶務)

第6条 検討会議の庶務は、教育委員会事務局教育支援課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

別表（第4条関係）

政策経営部企画課長、政策経営部財政課長、地域振興部文化観光課長、地域振興部スポーツ振興課長、地域振興部青少年課長、健康部健康推進課長、こども未来部こども家庭支援課長、教育委員会事務局庶務課長、教育委員会事務局学務課長、教育委員会事務局指導室長、教育委員会事務局教育支援課長、教育委員会事務局地域教育課長、教育委員会事務局統括指導主事、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団管理課長、公益財団法人江東区健康スポーツ公社事業担当課長

【開催実績及び主な議題】

〈令和5年度〉

第1回（令和5年7月5日）

- ・部活動の地域移行の動向と庁内検討会議の設置について
- ・今後の検討スケジュール及び検討体制について

第2回（令和5年10月6日）

- ・令和5年度試行事業の実施状況について
- ・令和6年度事業の方向性案について

第3回（令和6年3月18日）

- ・令和5年度試行事業の実施結果について
- ・令和5年度の検討結果について

〈令和6年度〉

第1回（令和6年6月19日）

- ・令和6年度の検討スケジュールについて
- ・休日部活動の地域連携・地域移行推進方針（案）について

第2回（令和6年9月10日）

- ・地域連携・地域移行に係るアンケートの実施結果について
- ・区の実施モデルについて

第3回（令和6年11月20日）

- ・推進計画素案（案）について

